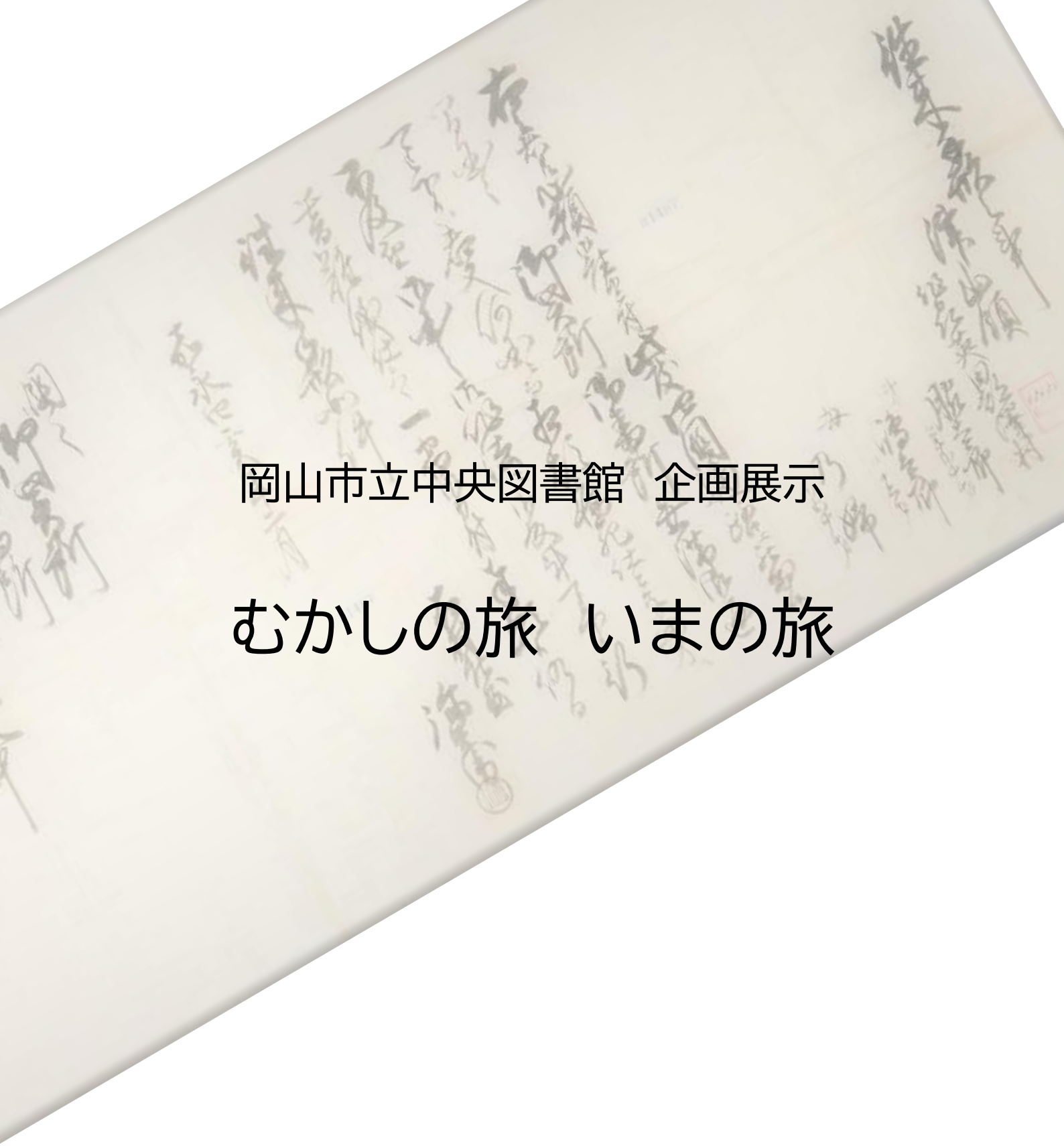


岡山市立中央図書館　企画展示

むかしの旅　いまの旅

2024

旅の歴史

　木々の緑が深みを増し、旅をするにも心地よい季節となりました。
　徒歩が中心であった江戸時代までの旅から、交通手段が発達して便利になった近代の旅まで、旅行のありかたは時代とともに大きく変わってきており、人々はその中で、旅をめぐって悲喜こもごもの思いを残してきました。
　そこでこのたびは、当館が所蔵する資料を紹介しながら旅の歴史を振り返ります。

会期　令和6年5月23日（木）～令和6年6月30日（日）
会場　岡山市立中央図書館　2階視聴覚ホール前　展示コーナー
主催　岡山市立中央図書館

ここに掲載した資料はすべて、岡山市立中央図書館の所蔵品です。
資料請求の際の参考に、展示品の説明文の右肩に「資料番号・・」とか、「・・文庫・・・・」などと資料番号を入れてあります（記号がないものもあります）。

1　江戸時代の旅　　社寺参詣と旅の安全

江戸時代までの旅は徒歩が中心でしたが、穏やかな瀬戸内海を控える西日本では、早くから船旅も盛んでした。

江戸幕府は旅行の安全をはかり、社会の制度や行路の環境を整えることに取り組みました。街道筋に宿駅を整備し、往来手形の発行を通じて旅行者を管理するとともに、沿道の住民には行き倒れ人や困窮者を発見した際の対処を求め、救護や死亡者の取扱いについて手続きを定めました。

それまでの旅行は公務や訴訟などが目的のことが多く、特殊な階層の人々に限られていましたが、江戸時代には治安が比較的よく保たれ、上述のように旅行のための環境が整備されてきたため、一般の庶民にも伊勢参りや金毘羅参詣、四国遍路など社寺参詣への情熱が高まり、江戸時代も後期になると多くの人が旅に出かけるようになりました。それは神仏への信仰に支えられていましたが、諸国を巡り歩いて各地の風物や伝統に接する機会を求めて、こんにちの観光旅行と変わらない一面ももっていました。

江戸時代の旅の資料としては、旅行案内書や旅日記などの旅行者が携行したものや、地域の人々が旅人を受け入れるにあたっての決まりごとや、応対の記録を書き留めた文書などが残っています。

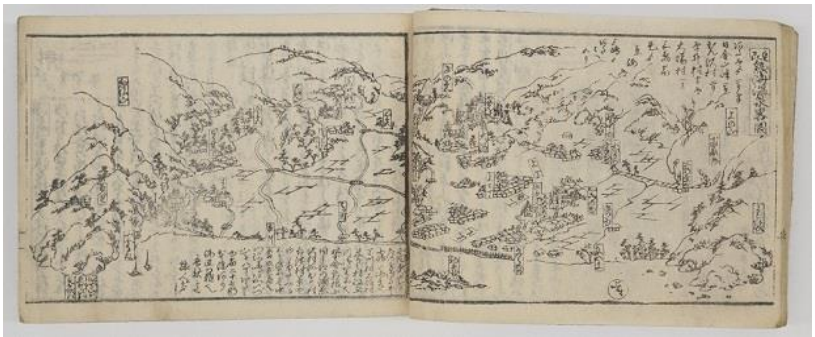
1　往来手形

嘉永４年(1851)２月　資料番号21467

津山藩領の沢村(現在は美作市内)の脇太郎(20 歳)と母(50 歳)と弟(12 歳)が四国遍路を旅するため、村の庄屋が身元を保証し、津山藩の郡代が承認を与えた往来手形です。全国の関所・番所の通行許可と、病死のときの対応や困窮時の保護を要請していて、現代の旅券(パスポート)のような役割をしていました。

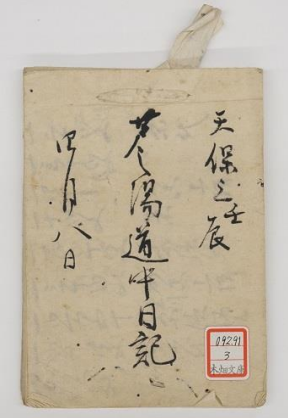
2　諸国道中たび鏡　　弘化５年(1848)　木畑文庫 291/4

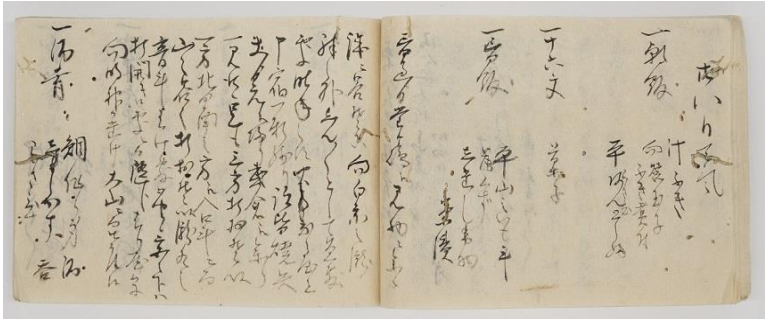
表紙



江戸・日本橋の版元、和泉屋半兵衛が出版し、広く流通した旅のガイドブックです。全国の旅程と各地の詳細な記述に加えて、主要な観光地は見開きの図で示され、携行品の知識や、各地の請負人の名簿など、旅の情報も満載です。展示した一冊は、代々岡山藩医を務めた木畑家に伝わってきたものです。

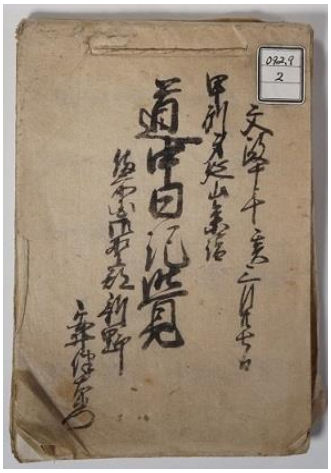
3　芦ノ湯道中日記　　天保３年(1832)4 月８日　木畑文庫 092.91/3

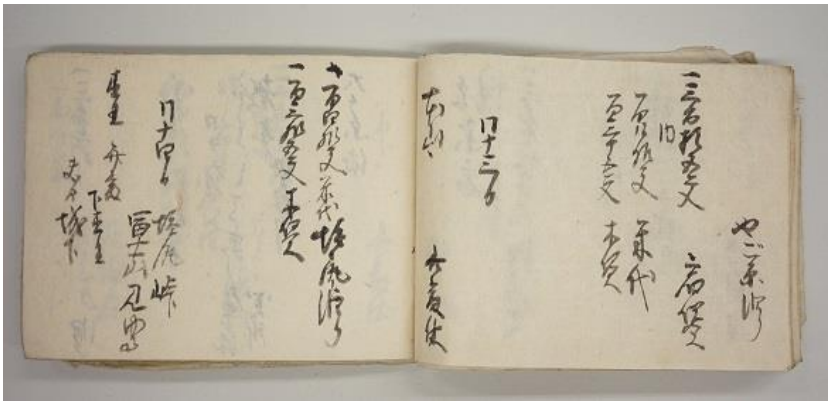




木畑家の人が品川を出立し、箱根の温泉地で過ごした旅日記です。展示箇所には、宿の食事（ふき、玉子、菓子、山のいもなど）から、白糸の滝を訪れ、町手から出火があり、夕食は鯛の切身で酒肴を楽しんだことが記されています。江戸時代の旅日記には休泊地と支払った代金を簡潔に記しただけのものが多い中で、日々の動静がわかる詳細な記述がなされています。

4　甲州身延山参詣道中日記覚　　文政 10 年(1827)　安井文庫 092.9/2





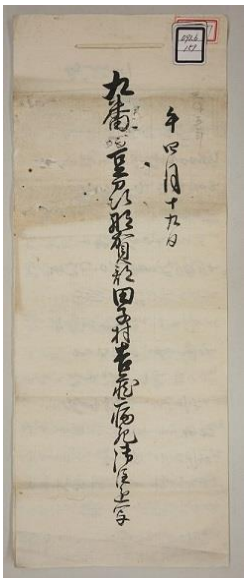
御野郡新野村の名主、安井伴右衛門が日蓮宗の聖地、身延山を訪れたときの旅日記です。3 月 27 日に岡山を出立し、4月 4 日に京都を経て中山道を東上。展示箇所の 14 日に塩尻峠に着き、諏訪湖の彼方に富士山を見た感動を記しています。17 日に身延山に着き、24 日に出立。5 月 8 日に大坂に着き、翌日の出立までの休泊地と支払い額(茶代、木賃代など)が簡潔に記されています。

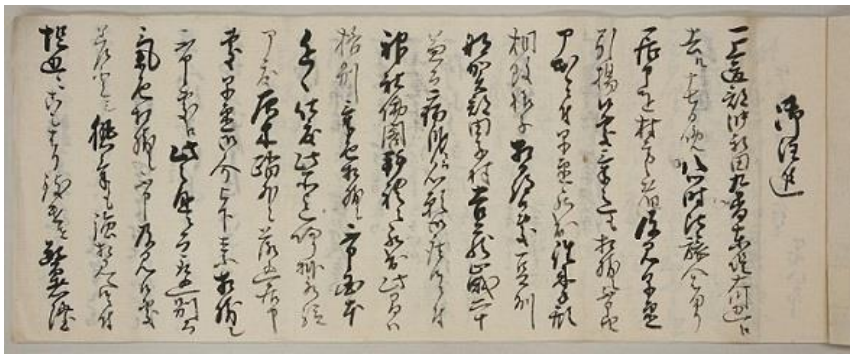
5　道中不時入用引替証文[一金弐百疋]　　江戸時代　安井文庫 096.8/1

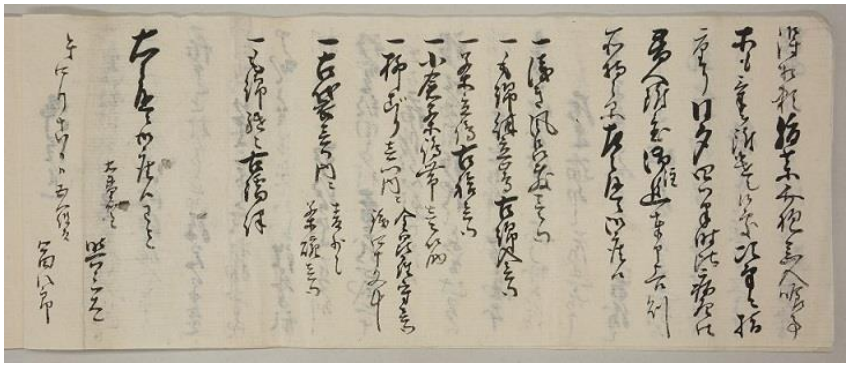
この文書も安井家に伝わってきたものです。旅の道中で不事の入用が生じたために所持金が足らなくなったときは、この書付の中に記されている伊勢、大坂、近江の指定の場所へこれを持参したら、割印が正しいものと確認されると、この書付と引換えに額面の金額の路銀を借りることができる、というものです。

6　九番 豆州那賀郡田子村吉蔵病死御書上写

天保5年（1834）4月19日　藤原文庫 093.6/159







徒歩などによる長旅では、旅の途中で落命する人も少なくありませんでした。この文書は、沖新田九番村（現在の東区九蟠）の村人たちが、伊豆国から旅をしてきて、ここで行き倒れた人を発見し、名主を呼んで介抱しましたが、その甲斐なく死亡すると、名主が身元や所持品を検査して、死因が病死であって犯罪による死ではないことを確かめ、往来手形の写しを添えて、管轄の大庄屋を通して岡山藩の奉行へ報告し、遺体の処置などについて伺いを立てた内容の写し（控え）です。村々には旅行者を保護する義務が課せられており、ここにみられるような行政上の厳密な手続きも定められていました。この文書は、この中に名前の出ている三番村在住の大庄屋、藤原深蔵が、文書の取次ぎの途中で自身のための手控えに作成したもので、沖新田の豪農、藤原家に伝わってきました。

7　備前瑜伽山図　　江戸時代　　資料番号34346

児島半島の瑜伽（ゆが）山（蓮台寺）は、江戸時代から参詣人を集めて賑わいました。その境内と門前を描いたこの木版画は、参詣人への案内と、旅の思い出を兼ねて販売されたものでしょう。旅行で心配なのは病気と怪我ですが、この境内図は神告丸という薬の広告になっており、門前に店を構えるその薬種商が作成したもののようです。

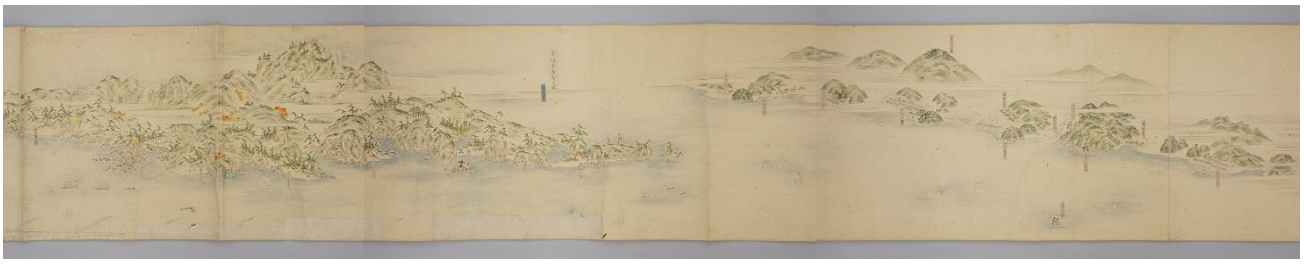
8　備前児島霊場之図　　明治初期　　資料番号 43950

弘法大師の聖地を巡礼して回る四国遍路がモデルになって、全国各地にそれぞれの霊場巡りのコースが作られました。岡山に近いところでは児島半島内の寺院を巡る遍路が設けられており、昭和戦前期あたりまで盛んでした。

9　金毘羅御宿看板　　明治初期

伊勢神宮と並んで全国から参詣人を集めたのは讃岐国の金毘羅社でした。社寺参詣が盛んになるにつれ、地域の人々で参詣を支えあう講組織が全国に作られるようになり、行路には各々の講の定宿も設けられ、看板を掛けて目印にしました。展示品は、美作国の英田郡（現在の美作市など）の講のために、備前国内などの経路上にあった定宿で用いられたものとみられます。

10　大坂より海路厳島神社参拝道中絵図　　江戸時代後期　書画 A2-92



拡大

穏やかな瀬戸内海では船旅も盛んでした。安芸国の宮島に鎮座する厳島神社は、平家一門の帰依で大変有名ですが、中・近世にもそれぞれの時代の為政者が保護を加え、広く信仰を集めました。この絵巻には、大坂から船旅で厳島神社を訪れるときに見ることができる沿岸や島々の景観が連続的に描かれています。長い絵巻の中で、ここには末尾の部分（宮島の箇所）だけを掲出しています。

この絵巻の図を見て思い出されるのは、江戸時代には国土の幹線である江戸～大坂～長崎を結んだ行路の図が、しばしば屏風や絵巻に描かれていたことです。この絵巻の図は、そうした行路図の中から、瀬戸内海の航路を中心とする大坂～長崎の行程の一部分を取り、そこに南北の両側から描いた宮島の図を付加して、全体を整えたような構成になっています。

現在では保存状態が悪く、虫損や傷みが多いために雰囲気がやや損なわれていますが、もとは丁寧に仕上げられた絵巻物です。郷土史家の岡長平氏の旧蔵品です。

幕末の岡山藩家老、日置帯刀（へきたてわき）の旅

岡山藩の重臣で、金川（現在の北区御津町）に陣屋を構えた日置氏は、家老の中でも仕置職という、藩の政務を司る役職をしばしば任された家柄でした。幕末に仕置家老を務めた日置忠尚（帯刀）は、風雲急を告げる政治情勢の中で、岡山藩の舵取り役として外交交渉にあたっていました。

新政府が錦の御旗を掲げて、幕府を朝敵と宣して全面な対決に至る慶応3年（1867）の暮れ、鳥羽伏見の戦いを間近に控えて岡山藩にも幕府側の大坂城を見据える要衝、西宮を警衛する任務が下り、数千の藩兵が隊列を組んで山陽道を東上しました。翌年 1 月 10 日、帯刀の配下の部隊が外国人居留地に近い神戸を通行していたとき、隊列を横切るフランス人水兵を咎めたことから小競り合いが生じ、武装した諸外国の兵士が詰めかけて互いに発砲しあう事態になりました（神戸事件）。

急報を受けた帯刀は引き返して部隊を山の手へ退避させ、事態の収拾に努めましたが、その後の交渉で諸外国の代表は自国民の安全に関わることとして万国公法を盾にとり、現場責任者の処罰を強く求めました。新政府は焦慮の末にこれを受け入れざるを得ないとの結論に至り、岡山藩へ通知すると帯刀の部隊で銃砲隊を指揮していた滝善三郎が出頭したため、神戸にほど近い永福寺で、諸外国の使節が立会う中で切腹することになりました。

しかし、本件では当初、諸外国が主張したものの、実は一人の死者も出たわけではなかったことから善三郎に寄せられる同情も多く、新政府の外国事務官、伊達宗城（宇和島藩主）や、外国事務掛の伊藤俊介（後の博文）らの助命交渉が粘り強く続けられました。切腹が行われる 2 月 9 日の定刻になっても諸外国の立会人が永福寺に現れず、彼らの到着が大幅に遅れたのは、伊藤たちがこのときまで説得に努めたからですが、国家の威信がかかる中で、彼らも主張を曲げることはできませんでした。

百石取りの武士で当時 32 歳の善三郎は、このとき少しの抗弁や申し開きもせず、家族を残して潔く自刃しましたが、その態度は立会人として一部始終を見届けた英国の外交官、アーネスト・サトウらにより、事に処するときの武士の覚悟の強さに触れた感銘をもって諸外国へ伝えられました。

日置帯刀は藩主の池田茂政とともに謹慎に服しましたが、それが解かれてからも事件については箝口令がしかれ、彼が再び政治の世界で表舞台に立つことはありませんでした。神戸事件は外国勢力と接触した岡山藩が、国際関係の厳しさと冷徹さを知る機会となりました。

帯刀は岡山藩の抱え絵師であった長谷川勝巌から画技を学び、雲外と号して明治期には絵画に没頭しました。彼は帝室技芸員に任命されるほど高い技量を身に付けて優れた作品を残しましたが、神戸・西宮への行軍は彼の人生の中で最大の痛恨事であり、失った部下への思いとともに、このときの旅の苦い記憶を終生忘れることはできなかったに違いありません。

彼は滝善三郎のために、次の和歌を残しています。

散る玉と 身は消えにしも 滝の音は 流れて猶も 聞こえけるかな

11 日置雲外 「孔雀に小禽図」　　明治時代　書画 A2-21

幕末に岡山藩の仕置家老を務めて活躍していた日置帯刀（1829～1918年）は、慶応 4 年 1 月の神戸事件に際して部下の滝善三郎が責任を負って切腹することになり、自身も謹慎を命ぜられて政治の表舞台から身を引きました。明治維新後は画業に没頭し、帝室技芸員にも任じられて、雲外と号して優れた作品を残しました。展示品は、郷土史家の岡長平氏から当館へ寄附されたものです。

2 近代の旅　鉄道網の発達と観光ブーム

開国と明治維新を経て日本は諸外国の技術を取り入れて近代化を進めるようになりますが、明治期には高速・大量の輸送機関である鉄道が導入されて発展し、旅の様相が一変しました。国内の鉄道網が完成し、全国規模のネットワークになったのは大正～昭和戦前期でしたが、この頃には特急つばめ号などの豪華優等列車が都市間を結び、人々は仕事の合間に得られる短期間の休暇でも旅行を楽しめるようになりました。そして現代を先駆ける観光ブームが起こり、各地の都市は観光客誘致を熱心に進め、博覧会の開催などで地域のアピールに努めました。

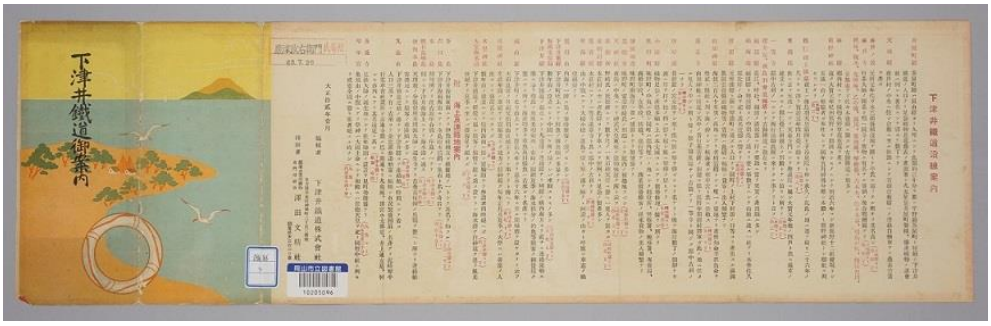
神戸から延伸されてきた山陽鉄道は明治 24 年 3 月 18 日に岡山まで開通し、日清戦争後は下関まで完成して国有化され、山陽本線となりました。四国と山陰への路線も岡山を起点に整備され、国の路線は遠隔地を結ぶ旅客と貨物の輸送に用いられました。そして明治時代末～大正時代には、市民生活にも関わりが深い都市近郊の交通手段として、軽便鉄道の建設が盛んでした。

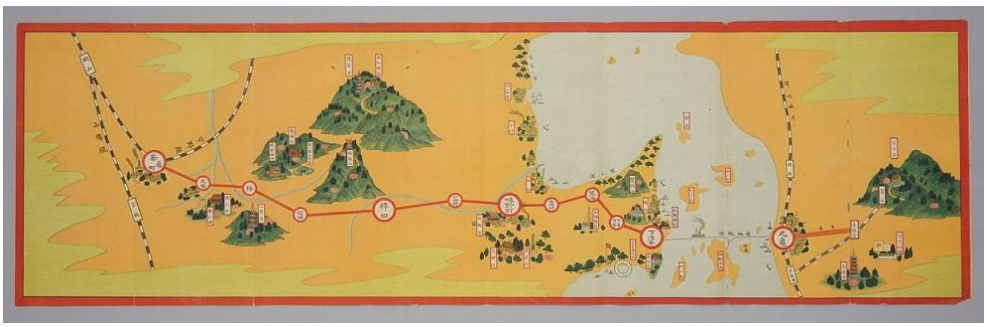
12 常山城趾公園　　大正 11 年　常山城趾保勝会（発行）、佐藤佐平（画・印刷）

本州と四国を連絡する幹線として明治 43 年に開通した宇野線は、児島半島の常山（つねやま）のそばを通されたので、沿線の史跡や景勝地は訪れやすくなりました。古戦場でもある常山の景観を守り、観光を振興するために、地域の人々が組織した保勝会が、このパンフレットを発行しています。

13　下津井鉄道御案内

大正 12 年 1 月　下津井鉄道株式会社（編輯・発行）　資料番号 10205096





近代の四国連絡は、大型船が接岸できる宇野港を開発して進められましたが、それまで金比羅参詣で賑わってきたのは下津井港と丸亀港、または尾道港と多度津港を結ぶ航路でした。下津井鉄道はそのために建設された軽便鉄道で、茶屋町駅で宇野線から乗り換えます。このパンフレットの表紙には、航路への接続を暗示して、海とカモメと救命浮輪が描かれています。

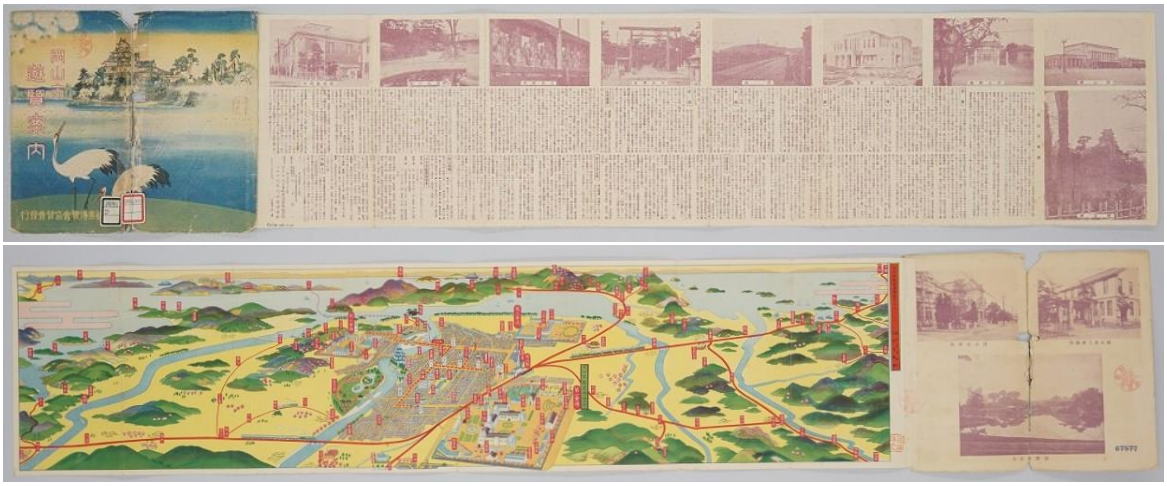
14　岡山後楽園名所図会

大正 12 年　吉田初三郎（著）　後楽園事務所・大正名所図会社（発行）

これは鳥瞰図の画家として昭和戦前期に全国に知られるようになる吉田初三郎の、やや早い時期の作品です。昭和期の躍動感あふれる描き方にたどり着く前の、図示するようなわかりやすさが特徴で、まだ鉄道の沿線案内図に近い特徴が認められます。しかしこの図の構図は、続く昭和 7 年に描かれた「岡山市鳥瞰図」でも、画面の中心を占める岡山城と後楽園の部分に、ほぼそのまま用いられて行きます。

15　岡山市遊覧案内

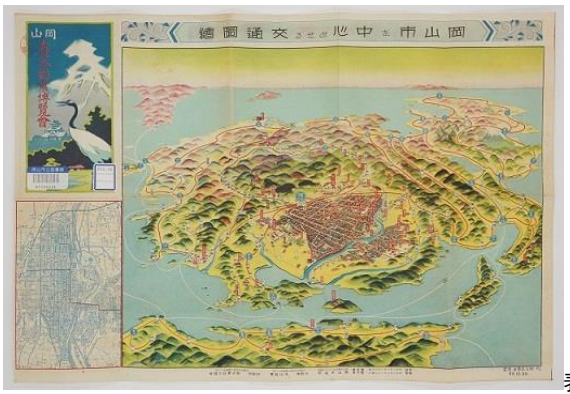
昭和３年３月　大日本勧業博覧会協賛会（編輯・発行）



昭和３年３月 20 日から5月 18 日まで開催された大日本勧業博覧会は、戦前に岡山市が主催した博覧会の中で最大のものでした。当時の練兵場（現在は北区いずみ町の岡山県総合グラウンド。通称・運動公園）を主会場とし、多数のパビリオンを建設して各地の物産や標本を展示しました。折り込み式のこのパンフレットは、岡山市街の中に分散するそれぞれの会場を案内するものです。

16　岡山　大日本勧業博覧会

昭和３年３月　岡山市役所（著作・発行）　資料番号 05104224



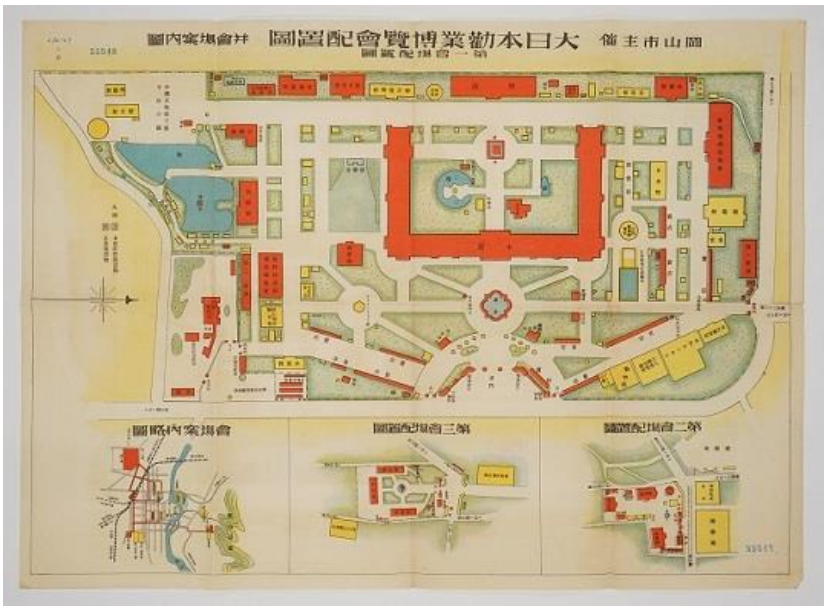
表

裏

折り畳み式のパンフレットの表面には、岡山の市街とその中に分散する博覧会の3つの会場が鳥瞰図の手法で描かれています。日本列島を一つの島のように表し、岡山の市街地付近を魚眼レンズでみたように極端に大きくクローズアップした図です。裏面には、3会場の開幕後の情景（発行の時点では予想図として）が描かれており、多くの人で賑わう様子が期待されています。

17　岡山市主催　大日本勧業博覧会配置図 并（ならびに） 会場案内図

資料番号 55548



この博覧会は、練兵場（現在の岡山県総合グラウンド）の東半分を主会場（第一会場）として開催されました。正門を通ると噴水の先に巨大な本館があり、それを多数のパビリオンが囲んでいました。その中には台湾、朝鮮、満蒙の物産を紹介する施設もあり、時代を感じさせます。

18　岡山市主催　大日本勧業博覧会絵葉書

8 枚　大日本勧業博覧会協賛会（発行）

この博覧会の絵葉書で展示館を紹介するものには、モノクロ写真のものと、この展示品のように、写真をもとにして彩色を施したものが作られて残っています。この博覧会を契機にして岡山市の内外からの人の交流が活発になり、産業が発展することが期待されていました。

19 岡山県

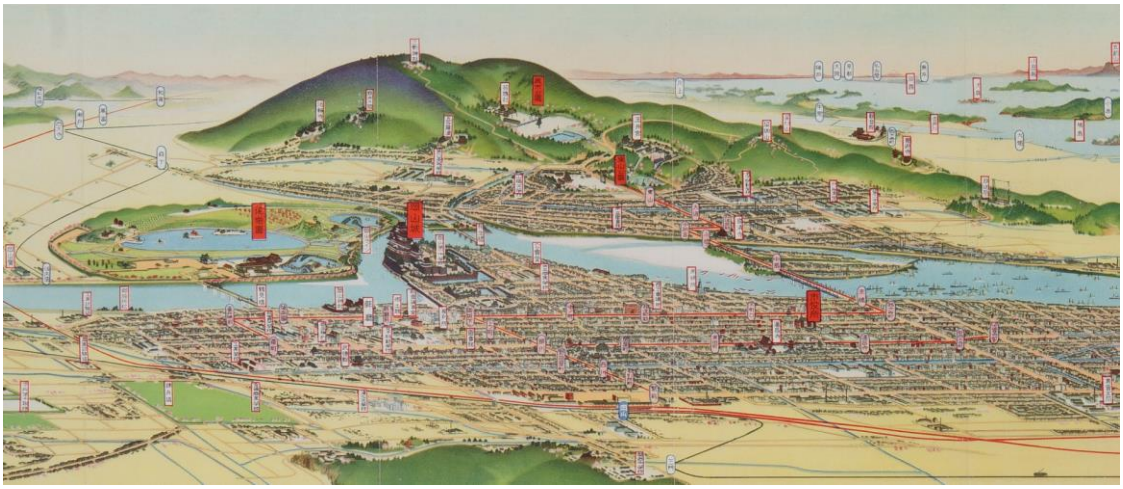
昭和５年11月 吉田初三郎（著） 岡山県（発行）

昭和５年11月には天皇が親裁する陸軍特別大演習が広島・岡山の両県で開催されました。後楽園に大本営が置かれ、練兵場で昭和天皇が多数の将兵を観閲しましたが、これは戦前では地域に注目が集まる一大行事でしたので、開催にあわせて地域とその物産を紹介する多彩な活動も行われました。このパンフレットはその際に岡山県が吉田初三郎に制作を依頼した、岡山県を描いた鳥瞰図です。

20 岡山市

昭和７年4月 吉田初三郎（著） 岡山市産業課（発行） 資料番号 71084

昭和 7 年には岡山市が東山のかいわいで観光博覧会を開催しました。主催した岡山市の産業課は、岡山市街の鳥瞰図の作成を吉田初三郎に依頼しましたが、初三郎は京山の上空に視点を定め、手前に岡山駅を描き、岡山城と後楽園の先に緑豊かな操山の峰々を眺め渡す斬新な構図を工夫しました。この図の原画は屏風に仕立てられ、現在は岡山シティミュージアムで保存されています。



吉田初三郎「岡山市鳥瞰図」の中央の部分

21 岡山観光博覧会場予定図

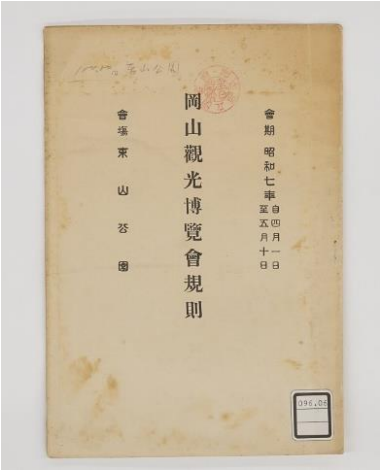
資料番号 12274800

岡山観光博覧会の会場配置図です。場所は現在の岡山電気軌道の路面電車の東山線の終点、東山停留所の付近一帯でした。規模は 3 年前の大日本勧業博覧会より小さいですが、吉田初三郎の傑作として岡山市鳥瞰図が描かれたことは、この博覧会の意義を高めています。初三郎は岡山市出身の画家、鹿子木孟郎の門人であり、岡山市からの依頼に真摯に応じました。

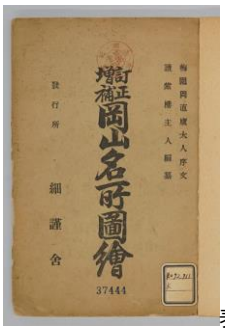
22 岡山観光博覧会規則

岡山観光博覧会事務局（作成・発行）　資料番号 55601

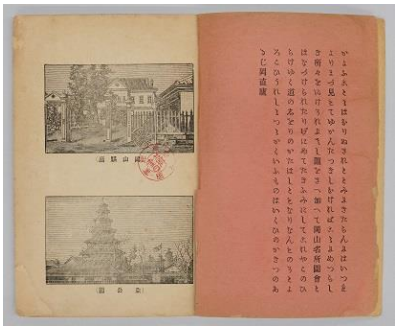
観光博覧会の諸規則を記した冊子です。これによってこの博覧会の運営形態をうかがい知ることができます。岡山市役所内に事務所を置いていた博覧会の事務局が作成したものです。

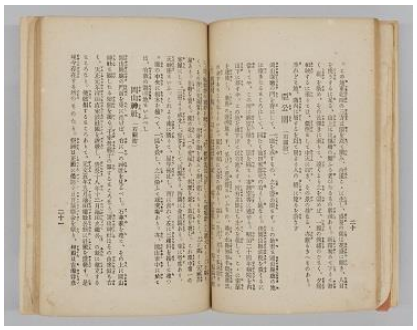


23　訂正増補　岡山名所図会　　明治 27 年第 2 版　細謹舎(編・発行)　資料番号37444



表紙

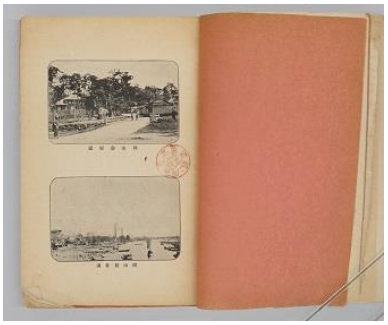




岡山で地図や地理書なども出版した書店、細謹舎が明治 25 年に初版を作成し、改訂を加えながら版を重ねた案内書です。国学者で岡山神社の宮司であった岡直盧が序文を寄せています。現在の北区天神町にあった亜公園や廃城後の岡山城の様子など、作成時ならではの情報に接せられます。

24　訂正増補　岡山名所図絵　　明治 33 年第 6 版　細謹舎(編・発行)　資料番号2274

表紙



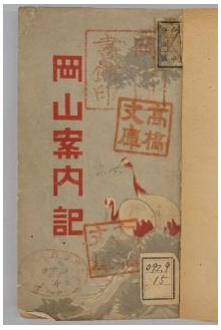
同じ案内書の第 6 版ですが、表紙が色刷になり、口絵も木版から写真図版に変っています。

25　岡山名勝　　明治 36 年　第五回内国勧業博覧会岡山協賛会(発行)　資料番号 35348

東京で開催されてきた内国勧業博覧会は、第5回が京都で開催されることになり、これに岡山など西日本各地の都市も参加して各地で関連行事が開催されました。このパンフレットは、そうした機運に際して岡山を広く紹介するために作成されたものです。

26　岡山案内記　　大正 3 年 4 月　妹尾薇谷(編纂)　山陽実業新報社(発行)　資料番号 5703

妹尾薇谷は戦前期の岡山市史の編纂に参加した歴史家で、市内の名所旧跡の歴史背景を丁寧に記していますが、商店の紹介も多く挿入されています。さきの『岡山名所図会』第6版とこの『岡山案内記』は岡山医学校の外科学教授、高橋金一郎の膨大な蔵書の一部で、大正期に発足したばかりの岡山市立図書館が収蔵し、戦災を免れて残ったものです。

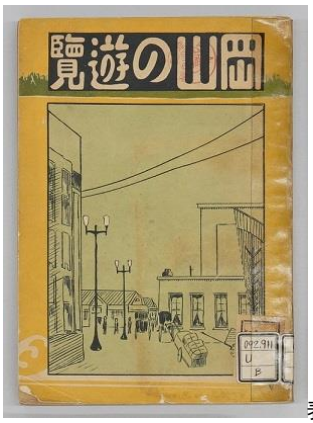


27 岡山市案内　　大正 11 年　岡山市役所（発行）　資料番号 35361

表紙

岡山市が発行した冊子です。巻末にまとめられた記述の部分は多くなく、品質の高いモノクロ写真の図版が中心になった書物です。明治期の書物は木版画をもとにした挿絵が普通でしたが、大正期にかけて製版技術が進歩し、写真図版が主流になって行きます。この冊子で岡山市は、市街とその魅力を写真によって紹介する新しい試みに取り組んでいます。

28 岡山の遊覧　　昭和４年１月　宇垣武治（編・著・発行）　資料番号35353



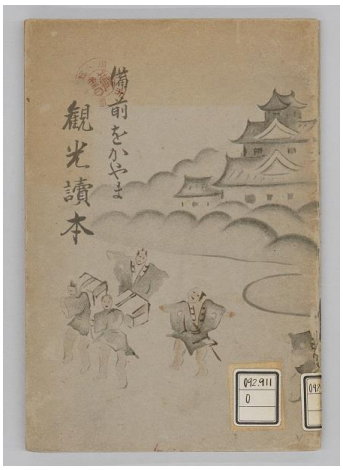
表紙

著述家の宇垣武治が執筆・作成した冊子で、大日本勧業博覧会の開催の翌年の刊行です。古い文献を詳しく調べ、岡山市が作成した案内書では取り上げていない町や寺社や旧跡にもよく触れています。表紙に当時の岡山駅の駅舎の一部が描かれており、市外からの訪問者が読者に想定されています。戦災で焼失した宇喜多直家の木像の写真図版も掲載されています。

29 備前をかやま　　昭和４年３月　岡山市役所勧業課（著作・発行）　資料番号67014

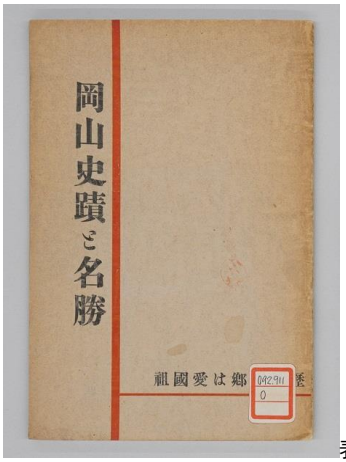
青空を背景にして岡山城と丹頂鶴を描いた表紙のデザインは、大日本勧業博覧会の折り込みパンフレットと同じで、この案内書も岡山市が博覧会の成功を受けて作成したものといえそうです。大正 3 年の「岡山案内記」以来、冒頭の書き出しが池田光政の「米のなる木」の逸話の紹介で始まることが岡山の市内案内の通例のようになりますが、この冊子でも同様です。

30 備前をかやま観光読本　　昭和9年　岡山市産業課（編纂・発行）　資料番号37412

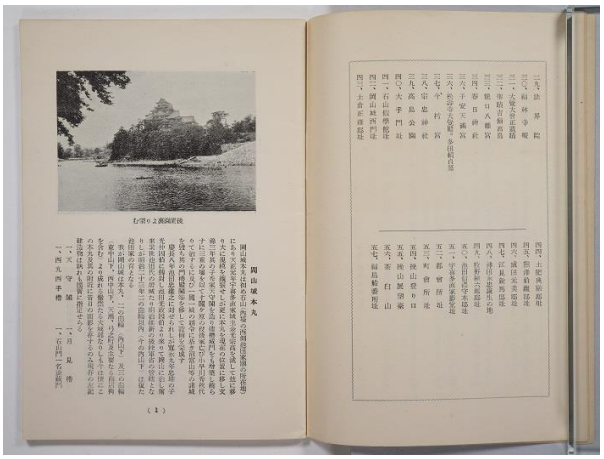


表紙には、岡山藩主の池田光政が、岡山の稔り豊かさを喧伝するために、農作への心配がいらない（稲穂を見たことさえない）無邪気さを装って、参勤交代の人足に「わたしゃ備前の岡山育ち、米のなる木をまだ知らぬ」と歌わせたという俗謡がイラストで紹介されています。本文の書き出しも同様で、戦前期における光政への敬愛の念と、その頃の岡山市がこのイメージを通じて自身を豊穣の土地として広くアピールしようとしていたことが伝わってきます。

31 岡山史蹟と名勝　　昭和 14 年　岡山観光協会（編纂・発行）



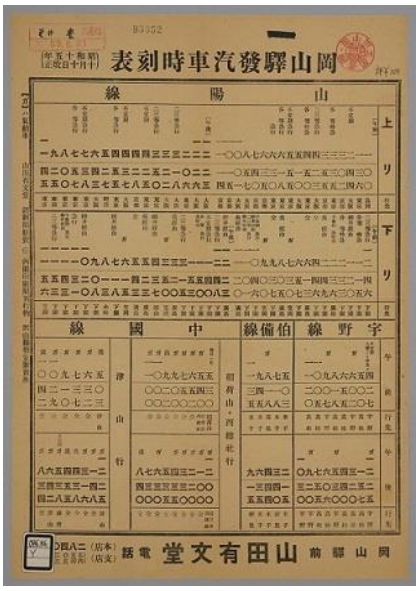
表紙



表紙に「祖国愛は郷土の歴史地理認識より」と書かれています。昭和 12 年から中国との激しい戦争が始まり、戦時色が強まってきました。この冊子の序文には、民族精神発揚のためとして、祖国認識と郷土認識の大切さが説かれており、観光案内にも張りつめた空気が及んできています。

32 岡山駅発汽車時刻表 昭和 15 年 10 月10 日改正

山田有文堂（発行） 資料番号83052



戦時体制が強化される中で、鉄道も旅客輸送の花形であった豪華な優等列車が少なくなり、軍需物資を中心に貨物輸送が優先されるようになって行きます。なお、この昭和 15 年の岡山駅の時刻表では、山陽本線はまだ東京、大阪、下関など遠隔地への列車ばかりで、鉄道は通勤・通学などで市民の生活を支えるものではなかったことがわかります。

33 岡山ひとり案内 昭和 28～32 年頃 近畿日本ツーリスト・岡山新聞社（発行）

表

裏

長かった戦争が終わり、極度の物資不足の中から復興の兆しが見え始め、商用や観光のための旅行が復活してきました。このパンフレットには発行年が書かれていませんが、描写の内容から、ラジオ山陽が開局した昭和 28 年以降、岡山県庁が内山下へ移転する昭和 32 年以前に比定でき、この時期の岡山の市街が活写されています。

おもな関連文献

児玉幸多(編)『日本交通史　新装版』平成30年(2018)　吉川弘文館
土井作治、定兼学(編)『吉備路と山陽道』平成16年(2004)　吉川弘文館
岡山市史編集委員会(編)『岡山市史　産業経済編』第3編第7章　交通・運輸・通信機関の近代化(591-680頁)　昭和41年(1976)　岡山市役所(発行)
岡山県史編纂員会(編)『岡山県史　近代Ⅰ』第三章第四節「交通と通信」(288-304頁)　第五章第六節「交通と通信」(611-629頁)　昭和60年(1985)　山陽新聞社
倉地克直『江戸時代の瀬戸内海交通』令和3年(2021)　吉川弘文館
山陽新聞社(編)『写真集　岡山の鉄道』昭和62年(1987)　山陽新聞社出版局
長船友則『山陽鉄道物語　先駆的な営業施策を数多く導入した輝かしい足跡』平成20年(2008)　JTBパブリッシング
萩原幹生(編著)『宇高連絡船78年の歩み』平成12年(2000)　成山堂書店
寺田裕一『下津井電鉄』(上)令和2年(2020)(下)令和3年(2021)　ネコ・パブリッシング
岡山市役所(編)『岡山市史　第6』「鉄道及軌道」4264－4272頁「昭和5年陸軍特別大演習」4536－4553頁　昭和13年(1938)　岡山市役所(発行)
堀田典裕『吉田初三郎の鳥瞰図を読む　描かれた近代日本の風景』平成21年(2009)　河出書房新社
増田啓一郎(編)『美しき九州「大正広重」吉田初三郎の世界』平成21年(2009)　海鳥社
蔵地矩『神戸事変と瀧善三郎』昭和12年(1937)　堅石園
御津町史編纂委員会(編)『御津町史』2 神戸事件と義烈碑　381-396頁　昭和60年(1985)　御津町(発行)
および、展示したそれぞれの案内書。

＊このほかにも江戸時代の旅、鉄道、博覧会、吉田初三郎にかかわる刊行物は多数にのぼります。

岡山市立中央図書館企画展示　むかしの旅　いまの旅

解説パンフレット
発行　2024年5月23日
制作　岡山市立中央図書館　岡山県岡山市北区二日市町56番地
（執筆　飯島章仁）

岡山市立中央図書館